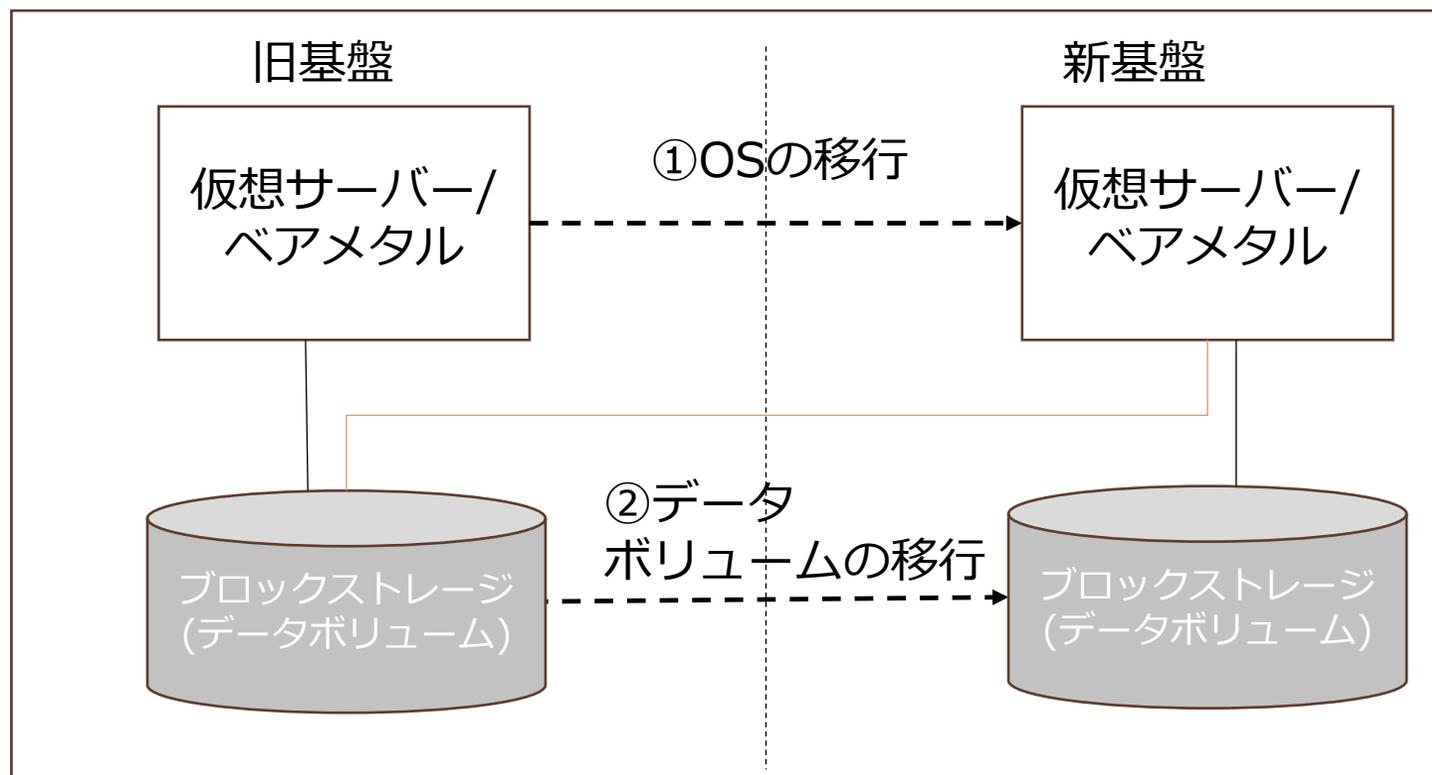


## 2.3 ブロックストレージのデータ移行手順

### ■ 前提条件および注意事項

- ブロックストレージが利用されているデータボリュームの移行方式についてはマウントしているOSによって変わります。
- ブロックストレージを利用しているサーバ移行については下図で示す通り2ステップで行われます。①のOSの移行については各サーバーの移行手順を参照してください。本ドキュメントでは②のデータボリュームの移行手順を説明しています。
- Windows OS及びLinux系OSについて説明します。
- 移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。



## 2.3 ブロックストレージのデータ移行手順

### ■ 移行作業内容

1. 移行先ブロックストレージの作成
2. 移行先ブロックストレージのボリューム接続
3. データ移行作業
4. 移行元ブロックストレージの削除

# 1. 移行先ブロックストレージの作成

移行先ブロックストレージおよびボリュームの作成

以下リンクを参照し、移行先となるブロックストレージおよびボリュームを作成します。

[ブロックストレージの新規作成方法](#)

## 2. 移行先ブロックストレージのボリューム接続

### 移行先ブロックストレージのボリューム接続

以下リンクを参照し、データ移行作業を実施するサーバ（※）に、移行先ブロックストレージのボリュームを接続します。

- [Linux](#)
- [Windows](#)

※移行元ブロックストレージに接続されているサーバ

# 3. データ移行作業

## Linuxの場合

### 3. データ移行作業 (Linux)

#### データ移行作業

データ移行を実施するサーバにログインし、移行元ブロックストレージのボリュームから移行先ブロックストレージのボリュームへcpコマンドを実行します。

```
# cp -auv 移行元ブロックストレージのマウントポイント 移行先ブロックストレージのマウントポイント
```

```
[root@rhel194-ki ~]# cp -auv /mnt/migration/migration_data /home/test/migration_data_from_oldrhel/  
'/mnt/migration/migration_data' -> '/home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data'  
'/mnt/migration/migration_data/testtext1.txt' -> '/home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data/testtext1.txt'  
'/mnt/migration/migration_data/testtext2.txt' -> '/home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data/testtext2.txt'  
[root@rhel194-ki ~]#
```

### 3. データ移行作業 (Linux)

cpコマンド実施後、以下のコマンドで移行先ブロックストレージのボリューム上にデータが移行されていることを確認します。

```
# cd 移行先ブロックストレージのマウントポイント  
# ls -l
```

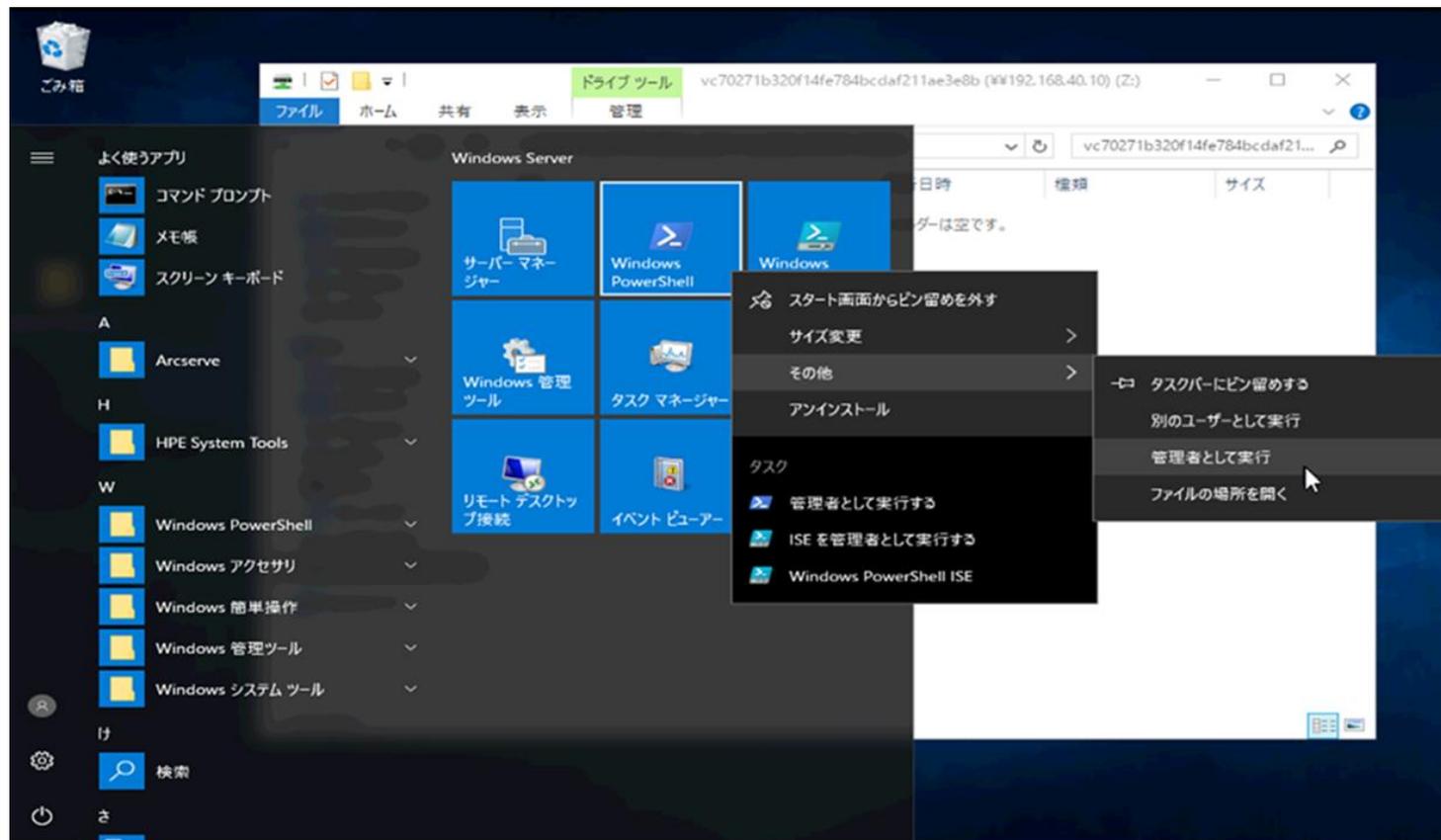
```
[test@rhel194-ki ~]$ cd migration_data_from_oldrhel/migration_data/  
[test@rhel194-ki migration_data]$ ls -l  
total 8  
-rw-rw-r--. 1 test test 24 Aug 26 03:15 testtext1.txt  
-rw-rw-r--. 1 test test 24 Aug 26 03:15 testtext2.txt  
[test@rhel194-ki migration_data]$ cat testtext1.txt  
testtext1_025 0826 1215  
[test@rhel194-ki migration_data]$ cat testtext2.txt  
testtext2_025 0826 1215  
[test@rhel194-ki migration_data]$
```

# 3. データ移行作業

## Windowsの場合

### 3. データ移行作業 (Windows)

データ移行を実施するサーバにログインして、「スタート」→「検索」ボックスから「Windows PowerShell」を検索し、結果の一覧で、「Windows PowerShell」を右クリックし、「管理者として実行」を選択します。



### 3. データ移行作業 (Windows)

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合、「はい」を選択します。



### 3. データ移行作業 (Windows)

起動した「Windows PowerShell」にてrobocopyコマンドを実行し、移行元ブロックストレージのボリュームから、移行先ブロックストレージのボリュームへデータ移行を行います。

*robocopy* 移行対象のフォルダパス バックアップデータ保存用ストレージのパス /E /COPY:DT /XJ

```

管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\windows\system32> robocopy C:\Users\test\Desktop ¥¥192.168.40.10¥vc70271b320f14fe784bcdaf211ae3e8b¥Migration¥Desktop /E /COPY:DT /XJ

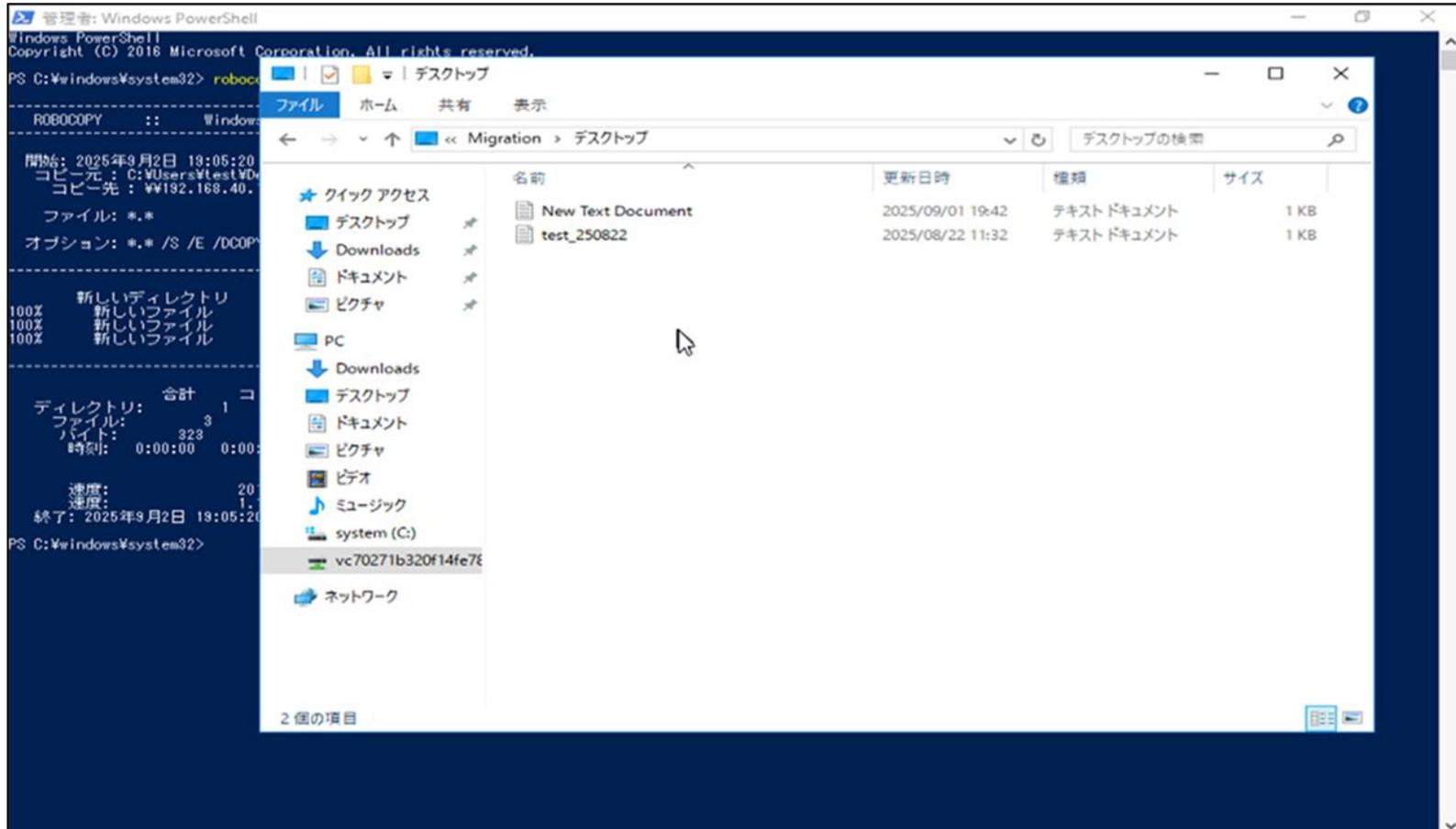
-----
ROBOCOPY      ::   Windows の堅牢性の高いファイル コピー
-----
開始: 2025年9月2日 13:05:20
コピー元:  C:\Users\test\Desktop¥
コピー先:  ¥¥192.168.40.10¥vc70271b320f14fe784bcdaf211ae3e8b¥Migration¥Desktop¥
ファイル: *.*
オプション: *.* /S /E /DCOPY:D /COPY:DT /XJ /R:1000000 /W:30
-----
100% 新しいディレクトリ      3      C:\Users\test\Desktop¥
100% 新しいファイル        282      desktop.ini
100% 新しいファイル         16      New Text Document.txt
100% 新しいファイル         25      test_250822.txt
-----
ディレクトリ:   合計      コピー済み      スキップ      不一致      失敗      Extrae
ファイル:
バイト:         323      323          0          0          0          0
時刻:         0:00:00      0:00:00          0          0          0          0
-----
速度:          20187 バイト/秒
速度:          1.155 MB/分
終了: 2025年9月2日 13:05:20
PS C:\windows\system32>
  
```

/E  
/COPY: コピーフラグ  
コピーフラグ  
/XJ

空のディレクトリを含むサブディレクトリをコピーします。  
ファイルにコピーする情報を指定します。  
D=データ、T=代替データストリームをコピーしない  
ジャンクションポイントとシンボリックリンクを除外します。

### 3. データ移行作業 (Windows)

移行先ブロックストレージのボリューム上にデータが移行されており、正常に参照、保存できることを確認します。



## 4. 移行元ブロックストレージの削除

移行先ブロックストレージへの移行が完了し、移行したデータに問題が無いことをご確認いただけましたら、移行元ブロックストレージの削除作業を行います。

## 4. 移行元ブロックストレージの削除

移行元ブロックストレージのボリューム接続解除

以下リンクを参照し、データ移行を実施したサーバにて、移行元ブロックストレージのボリューム接続を解除します。

[ブロックストレージボリュームの接続解除方法](#)

## 4. 移行元ブロックストレージの削除

移行元ブロックストレージ上のボリューム削除

以下リンクを参照し、移行元ブロックストレージのボリューム削除を行います。

[ボリュームの削除  
ブロックストレージの削除方法](#)

移行元ブロックストレージの削除

以下リンクを参照し、移行元ブロックストレージの削除を行います。

[ブロックストレージの削除方法](#)

## 2.3 ブロックストレージのデータ移行手順

### ■ 切り戻し方法

- 「手順4. 移行元ブロックストレージの削除」前であれば、移行元環境が残っているため、切り戻しが可能です。
- 「手順4. 移行元ブロックストレージの削除」後の切り戻しはできません。
- 必要に応じて、以下手順を参考にスナップショット作成をご検討ください。

[スナップショットの作成方法 - ブロックストレージ チュートリアル](#)

## 2.3 ブロックストレージのデータ移行手順

### ■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。